

製品名: TSG101 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21530**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:44kD;Observed MW:44kD

抗原情報

遺伝子名	TSG101
別名	TSG101;Tumor susceptibility gene 101 protein;ESCRT-I complex subunit TSG101
遺伝子 ID	7251.0
SwissProt ID	Q99816
免疫原	ヒト TSG101 の合成ペプチド

背景

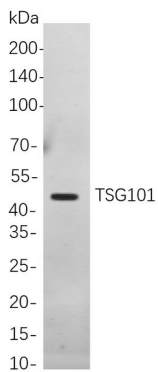
細胞局在: 細胞質、核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ユビキチン結合酵素の一見不活性な相同タンパク質群に属する。遺伝子産物は、腫瘍形成に関与する細胞質リン酸化タンパク質であるスタスミンと相互作用するコイルドコイルドメインを含

む。このタンパク質は細胞の増殖と分化に関与し、負の増殖調節因子として作用する可能性がある。この腫瘍感受性遺伝子の in vitro 定常発現は、ゲノム安定性の維持と細胞周期制御に重要であると考えられる。この遺伝子の変異と選択的スプライシングは乳がんにおいて高頻度に認められ、乳がんの腫瘍形成および / または進行期に欠陥が生じることを示唆している。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



TSG101 ウサギ mAb を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。